

海外留学報告会抄録

(ハートセービングプロジェクト モンゴル渡航小児循環器医療)

医学科 5 年 石本 玲奈

医学科 4 年 清水 杏実

医学科 3 年 矢野 友偉

ハートセービングプロジェクト（以下、HSP）は、モンゴルの厳しい経済状況下では行うことのできない医療を、日本とモンゴルの医師団が協力し行う医療支援活動である。2001年から開始されたこの活動により、2015年未までに447人のモンゴルで暮らす子どもが健康を回復している。日本から派遣された医療従事者等の人員は、現地でカテーテル治療班（以下、カテ班）と地方検診班に分かれ、カテーテル治療や心臓超音波検査といった医療活動を行うとともに、モンゴルの医療従事者への教育も活動の目的としている。

今回は5月（清水：カテ班）、9月（石本：ドルノゴビ地方検診班、矢野：カテ班）の2度にわたり、HSPの学生ボランティアとして当活動に参加した。

カテ班はウランバートル市内にあるモンゴル国立母子医療センターにて、心エコー検査、カテーテル治療（5月は計12例、9月は計7例）の見学や記録の手伝いを行った。このほか、経食道エコーのレクチャーや回診に参加する機会もあり、実際の医療現場を目の前で見て学ぶことができた。

地方検診は、9月にドルノゴビ県立中央病院での検診に参加し、問診での身長体重測定の手伝いを行った。日本から持参したポータブルエコー2台にて検診を行ったが、既に病院でフォローされているものから、受診歴がなくすぐに病院に送らなければいけない症例まで多々見受けられた。

カテ班、地方検診班ともに、日本では見られないような病態にまで進行している症例が多く、モンゴルで提供される医療の限界を目の当たりにした。しかし、限られた医療資源の中で子どもたちに最善の治療を提供しようと意見を出し合う先生方の姿を見て、医学的な知識だけでなく、医療者としての在り方についても多くの学びを得ることができた貴重な経験となった。

榎垣先生をはじめ、今回の渡航に関わってくださった先生方や現地の方々には、このような貴重な経験ができる機会を与えてくださり、本当に感謝しております。今回の活動で得られた学びや考えを、いつか関わってくださった皆様や現地の子どもたちに還元することができるようにこれからも勉学に励み精進していきます。